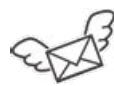


読者のひろば



読者の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。

中

学生と小学生の子どもを持つ母親です。鹿屋市の基本目標

③「子育てしやすいまち」に、とても期待しています。お金がかかる高校生への支援や給食費半額免除など、とてもありがたい政策です。誰もが、鹿屋市は子育てがしやすいと安心できるよう、今後もよろしく願います。(Y・Nさん・女性)

「子育てしやすいまち」は第2次鹿屋市総合計画に掲げる5つの基本目標の一つで、今年度は「みんなで育む『かのやっ子』プロジェクト」をもとに市が独自に行う「高校生応援給付金支給事業」や、宿泊産後ケアを利用する際の自己負担額引き下げなど、子育て世帯の経済的負担の軽減、支援の充実・強化を図ることとしています。本市では今後も子どもを産み育てやすい環境づくりや、未来を担う心豊かでたくましい人づくりのための教育の充実に取り組んでいきます。

子

育て支援、少子化対策など子どもに関する問題もあります

が、老若男女問わず独身の方が多いです。コロナ禍で出会いの場があまりなかったとは思いますが、段々と収束に向かっていますので、独身の男女が出会えるイベントをすれば、婚姻率も出生率も上がるのではないかと思います。鹿屋だけでなく全国的に幸せなカップルが増えるといいですね。(M・Aさん・女性)

本市では、人口減少の抑制と地域の生活機能を維持することを目的に、今年3月に「鹿屋市人口減少対策ビジョン」を策定しました。ビジョンに基づき若い世代に向けた施策として、出会いの場を創出するイベントの開催や新婚夫婦への新生活支援事業などを行っています。今後も、未来に羽ばたく鹿屋の子どもたちを安心して産み育てられる環境づくりを推進していきます。

鹿

屋市の5月のイベントに、「とっておきの音楽祭」があります。これは、障がいのある人もない人も1日一緒に音楽を楽しもう、というイベントです。私にはダウン症の娘がいます。音楽が大好きで、障がいをもち仲間と、「とっておきの音楽隊」として鹿屋を盛り上げようと、いろいろなイベントに参加して頑張っています。これからも鹿屋市が音楽を通して、障がいをもち人や子ども、高齢者、全ての人に優しい街になればいいな、と思っています。(おばこさん・女性)

「NPO法人とっておきの音楽祭inかのや」主催の同音楽祭は、障がいの有無に関わらず音楽を楽しんでいる演奏家や愛好家、その支援者などを招き、健常者と障がい者が共にステージを作り上げる過程を通して音楽の力で「心のバリアフリー」を目指すイベントで、平成23年から毎年実施されています。音楽は、リラクゼーション効果やリズム感覚の向上など様々な力を持つと言われていきます。音楽をコミュニケーションのきっかけとして、多くの人がつながるこのすばらしい取り組みが更に大きな輪となって「みんなちがってみんないい」と多様性を受け入れる優しい世界になることを願ってやみません。

広

報かのやはお母さんとよく見えています！「放課後は別の顔」のコーナーに、知っている人はいないかな、と詳しく見えています。小・中学生も楽しく見ることができ、コーナーが出来たらうれしいです！(こりっぴさん・女性)

広報かのやをご愛読いただきありがとうございます。放課後は別の顔「コーナー」では市内で頑張っている小中学生を紹介しており、様々なことに奮闘する子どもたちの姿を見ると「自分も頑張ろう！」という気持ちになるのではないのでしょうか。広報かのやでは、できるだけたくさんの人たちを紹介させていただきながら、多くの人々に愛され親しまれる広報誌でありたいと考えています。子どもたちがさらに楽しめるように写真やイラストを多く掲載するなど、読みやすい広報誌となるように心掛けていきます。

フオトネタ



つるバラ「安曇野」の展示

4/28～5/9の期間、市役所1階に鹿屋市バラ苗生産組合が育てたバラが展示されました。ウィーピングという珍しい仕立てとなっています。